



# CSR REPORT 2025

鬼怒川ゴム CSRレポート

# 未来の道を軽やかに

長い歴史の中で培った技術力と品質で、  
身も心も軽やかになる高品質かつ環境に優しい製品を提供します。  
また、時代の最先端を走り、未来のニーズに軽やかに応えます。

- 01 Top message トップメッセージ
- 02 Product 製品
- 03 Environment 環境
- 04 Society 社会
- 05 Governance ガバナンス
- 06 Company 会社概要

**編集方針** 当社の活動やCSR活動をより分かりやすくお伝えすることを目的に、CSRレポートを作成しています。今後も透明性の高い情報開示を通じて、ステークホルダーの皆さまとの信頼関係の構築に努めてまいります。

**報告対象** 国内11拠点 国外12拠点

**期間** 2024年4月1日～2025年3月31日  
(一部発行日までの活動が含まれます)

参考にしたガイドライン：GRIスタンダード

# 01

## TOP Message

### トップメッセージ

#### 経営理念

私たちはEngineering Firstで技術を進化させ、安全、安心、快適な製品を提供しお客様の全ての課題解決に貢献します。

私たちは個人と組織の相互成長に取り組み、Globalの文化や動向を捉えた経営戦略による持続的発展を目指します。

私たちは社会貢献を通じて、従業員が誇りを持てる会社を目指します。

#### 会社沿革 鬼怒川ゴムグループの歩み

- 1933 ○ 創業者 杉田信が自動車用・家具用スポンジゴムなどの専門卸問屋「合資会社近信商会（東京都千代田区）」設立
- 1935 ○ カーマーカー（日産自動車株式会社）との取引開始
- 1939 ○ 問屋から製造業へ転換：輸出用ゴム玩具製造会社「鬼怒川護謨工業所（東京都江戸川区）」を買収し、「鬼怒川護謨工業株式会社（東京都江戸川区）」創立
- 1961 ○ 「鬼怒川ゴム工業株式会社」へ商号変更
- 1962 ○ 千葉工場（千葉県千葉市）建設に伴い、本社所在地変更（千葉県千葉市）東京証券取引所市場第二部に上場
- 1978 ○ 東京証券取引所市場第一部に上場
- 1999 ○ ISO 9001認証取得
- 2001 ○ QS-9000認証取得
- 2002 ○ ISO 14001認証取得：現真岡生産部
- 2003 ○ ISO 14001認証取得：現郡山車体部品生産部、九州生産部第一工場
- 2005 ○ TS 16949認証取得
- 2016 ○ 「株式会社日本政策投資銀行」傘下「株式会社VGホールディングス第一号」が、株式公開買付けにより当社株式を取得  
東京証券取引所第一部上場廃止
- 2026 ○ ISO 14001認証統合取得（鬼怒川ゴム工業株式会社単体）  
2026年4月1日付で持株会社体制へ移行予定

## トップメッセージ

# 『お客さまの満足の追求』と『ESGへの取組み』を通じて 『社会貢献』を実現してまいります

当社グループは、1939年（昭和14年）の創業以来、自動車用のゴム・合成樹脂製品を核として、世界の自動車産業の発展と共に歩んでまいりました。創業以来一貫して大切にしてきたのは、「お客様から信頼される商品を作る」という姿勢です。開発・設計から生産までのあらゆる工程、そして日本・北米・中国・アジアの各拠点において、常にお客様のニーズに応えるべく技術力と品質を磨いてまいりました。その結果、現在では日系メーカーのみならず、欧米メーカーからも高い信頼をいただけるまでに成長することができました。

近年、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化しています。そうした中で私たちは、これまで培ってきた技術と経験に加え、系列企業の枠を超えて自らの力で価値を創造する“独立メーカー”と

しての道を切り拓こうとしています。従来の延長線にとどまらず、より幅広い市場に向けて新たなチャレンジを進めることは、私たちにとって大きな転換点でもあります。

また、自動車産業の変革が加速する中で、新商品の開発や新領域への挑戦も積極的に推し進めています。お客様の期待を超える機能や価値を提供すること、環境性能や安全性に優れた素材・部品を創り出すことは、当社の未来を担う重要な取り組みです。

当社グループはこれからも、環境にやさしく、人を大切にした高品質な商品をお届けし、社会への貢献を果たしてまいります。そして「未来の道を軽やかに」というスローガンのもと、挑戦を恐れず、常に信頼され、選ばれ続ける企業であることをお約束します。



代表取締役 社長執行役員

増田 耕

# 02

## Product

鬼怒川ゴム工業の製品

ゴム・エラストマーを軸とした幅広いラインナップの車載部品（車体シール・ホース・防振・ブレーキ）を中核としつつ、その技術力を活かして建設機械、建材、スポーツなど様々な領域で事業を展開しています。

### ホース部品

内部パーツを強固につなぎ、車両の安全性と信頼性を守ります。

### 車体シール部品

車内の気密性を確保し、快適な室内空間を提供します。



### 防振部品

走行時の振動を吸収し、車両の運転性と静粛性向上に貢献します。

### ブレーキ部品

長年培われた信頼のもと、自動車の基本性能を支えます。

# 製品

## 車体シール部品

車内の気密性を確保し、  
快適な室内空間を提供します。

### ● ガラスラン



ガラスとドアの間をシールし、ガラス昇降時の案内、走行時及びドア閉時の振動吸収、水密、気密の機能があります。当社ではTPV製品を提案。

### ● フードシール



ボンネットと車体をシールし、走行時の風切り音の低減や、エンジンルームに雨水や埃の侵入を防止します。スポンジゴムを採用し軽量化へ貢献。

### ● トランクリッド



トランク周囲をシールし気密性を確保し、走行時のトランク振動を抑える役割も担います。

### ● ドアウェザーストリップ



ドアの周りに装着され、車内/外を遮断し、騒音、振動、閉時の音を低減。環境への取り組みとしてリサイクル性や軽量化に取り組んでいます。

## ホース部品

内部パーツを強固につなぎ、  
車両の安全性と信頼性を守ります。

### ● ラジエーターホース



ラジエーターとエンジンをつなぎ、エンジンのオーバーヒートを防ぐための冷却水を循環させるホースです。

### ● ウォーターホース



エンジンまわりをつなぎ、ラジエーターから送られた冷却水をエンジン内に循環させるホースです。

### ● ヒーターホース



エンジンとヒーターをつなぎ、エンジン発熱を利用し、冬期室内暖房を確保するための熱源をヒーターへ送るホースです。

### ● ブローバイホース



ロッカー・カバーとインテーク・マニホールド、もしくは、エア・ダクトとを繋ぎ、ロッカー・カバー内に溜まったブローバイガスを送る(逃がす)ホースです。

## ブレーキ部品

長年培われた信頼のもと、  
自動車の基本性能を支えます。

### ● マスターシリンダカップ



ペダルを踏む力を液圧に変換するマスタシリンダにおいて、ピストンの摺動に対しブレーキ液を完全に密閉して所定の内圧を与えます。

### ● ダイヤフラムガスケット



ブレーキフルードを備蓄するリザーバタンクにおいて、リザーバタンク内部を大気から遮断し、埃等の侵入を防止します。

### ● ピストンシール



制動力を発生させるブレーキキャリパにおいて、ピストンの動きを阻害せず、ブレーキ液を密閉。また、パッドとローター間の適正クリアランスを保ちます。

### ● ブレーキキャリパ用ピストンブーツ



制動力を発生させるブレーキキャリパにおいて、ピストンの動きに追従してシリンダボディとピストン間から埃、水等の浸入を防止します。

## 防振部品

走行時の振動を吸収し、車両の運  
転性と静粛性向上に貢献します。

### ● エンジンマウント



エンジンを支持し、エンジンからの振動伝達を抑制し、室内への騒音・振動を低減します。また、路面からの振動を抑制し、乗り心地を改善する機能も持っています。

### ● センターベアリングインシュレータ



プロペラシャフトを支持し、エンジンやプロペラシャフト自体から伝わる車体への振動を抑えて、室内騒音を低減します。

### ● エキゾーストマウント



マフラーから車体に伝わる振動を抑えて、室内騒音を低減します。当社では、『ブラータ』を使用し130°C以上でも機能を十分発揮できる材料を開発しました。

### ● ダイナミックダンパー



ドア、シート、マフラー、エンジン、サスペンションメンバーなどの固有の周波数での共振をおさえ、振動、室内騒音を改善します。

# 03

## Environment

環境

環境理念

### 「きれいな環境 残そう子供達に」

当社は、環境保全が全世界の重要課題であることを認識し、活力ある生活環境を提案する活動を通じて、豊かでゆとりある社会造りに貢献します。



## 環境への取り組み

当社は環境保全への対応として、生産活動におけるCO<sub>2</sub>排出量低減や歩留まり改善・工程改善による廃棄物削減を推進しています。中期目標に沿って環境ロードマップを作成し、複数部署の人員から構成される環境定例会にて進捗を確認・さらなる目標の設定を検討しています。

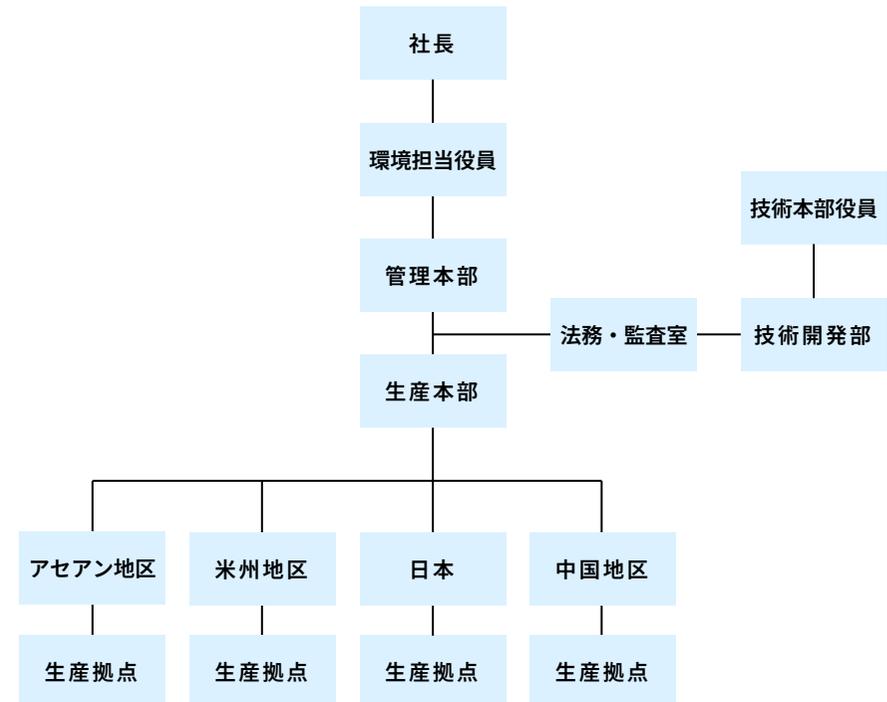
### 環境方針

当社は、『きれいな環境 残そう子供達に』をスローガンに、環境保全活動を当社の全ての活動に適用します。

1. 当社の事業活動が、地球環境に与える影響を捉え、技術的・経済的に可能な環境保全の目標を定め、汚染の予防・継続的な改善を進めながら地球環境保全に努めます。
2. 当社は自然環境と社会との調和を図る為に生産活動を中心に、省エネルギー、省資源及び廃棄物や環境負荷物質の低減を目指します。
3. 関連する法規及び条例、当社が同意するその他の要求事項を遵守し、当社の技術的・経済的に可能な自主規制を制定し、環境保全に取り組みます。
4. 当社の環境保全を推進する為に、一つひとつの部門、従業員一人ひとりが有効に活動できるように組織を整備し運営します。
5. 私たちは、事業活動に伴う生物多様性への影響低減や、保全につながる社会貢献活動に、自発的かつ着実に取り組みます。さらに、遺伝資源の利用にあたっては、生物多様性条約の理念を尊重するとともに、遺伝資源を次世代につなぐよう努めます。

### 環境マネジメント推進組織

環境マネジメントシステムの認証取得推進、維持更新の他、グローバル拠点でCO<sub>2</sub>排出量や取水量、産業廃棄物量を把握することにより、環境負荷の少ない企業活動を進めています。



## 環境への取り組み

### 環境負荷物質対策

生産拠点では環境負荷に影響のある化学物質を使用しておりますが、適正な管理を行うことにより、外部への漏出、大気への放出等を防いでいます。一方、地震などの天災により地域周辺の環境汚染が発生する恐れがある場合、緊急事態対応として「緊急事態の対応計画書」により環境負荷物質の暴露を最小限に留めます。

#### 1 緊急時の体制及び責任

#### 2 対応方法

#### 3 環境影響を予防・緩和する方法

#### 4 社内外への連絡方法

構内で化学物質を使用している作業エリアでは化学物質が漏出したことを想定し定期的に緊急訓練を行い、外部への漏出防止、従業員の安全確保、組織としての対応状況を確認しています。

### 規制リスク対応

当社グループでは製品における環境負荷物質について、EUのRoHS2指令やREACH規制などの各国の法規制に対応しています。社内だけでなく顧客やサプライヤーと共同し、今後新たに導入される規制に対しても迅速な情報収集及び対応検討を行ってまいります。

### ISO 14001認証取得拡大

当社では、これまで工場ごとに運用していた環境マネジメントシステムを全社的に統合し、ISO 14001の認証を取得しました。

この取り組みにより、環境面でのガバナンスを強化するとともに、組織全体で一貫した方針のもと、より効果的な環境管理と継続的な改善を推進しています。今後は、未取得の子会社についても認証取得を検討し、グループ全体での環境マネジメント体制のさらなる強化を目指してまいります。

#### 当社グループ環境マネジメントシステム認証取得状況

##### ■ ISO 14001

鬼怒川ゴム工業株式会社（大阪営業所を除く）/佐藤ゴム化学工業株式会社/CPR GOMU IND. P.C.L./ KINUGAWA(Thailand)CO.,LTD./鬼怒川橡塑(広州)有限公司/中光橡膠工業股份有限公司/福州福光橡塑有限公司/鬼怒川橡塑(蕪湖)有限公司/鬼怒川橡塑(鄭州)有限公司

##### ■ エコステージ

八洲ゴム工業株式会社（エコステージ3）

#### 緊急事態対応訓練風景

本社はこれまでISO 14001を未取得でしたが、認証取得に向けた取り組みの一環として、想定される環境上の緊急事態を洗い出しました。

対応手順書の整備や訓練、評価を行うことで、異常時の環境リスクをできるだけ小さくし、迅速に対応できる体制づくりを進めています。



## 中期環境目標

鬼怒川ゴムでは国内主要拠点のCO<sub>2</sub>排出量、産業廃棄物最終処分量、VOC（揮発性有機化合物）排出量について、経団連 - 日本ゴム工業会の環境自主行動計画に参加し環境負荷の低減に努めています。

グローバル拠点についてはエネルギー使用量・CO<sub>2</sub>排出量・産業廃棄物発生量・水使用量を毎年把握し、エネルギー使用量・CO<sub>2</sub>排出量・水使用量はCDP（環境NPOのカーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）へ報告しています。

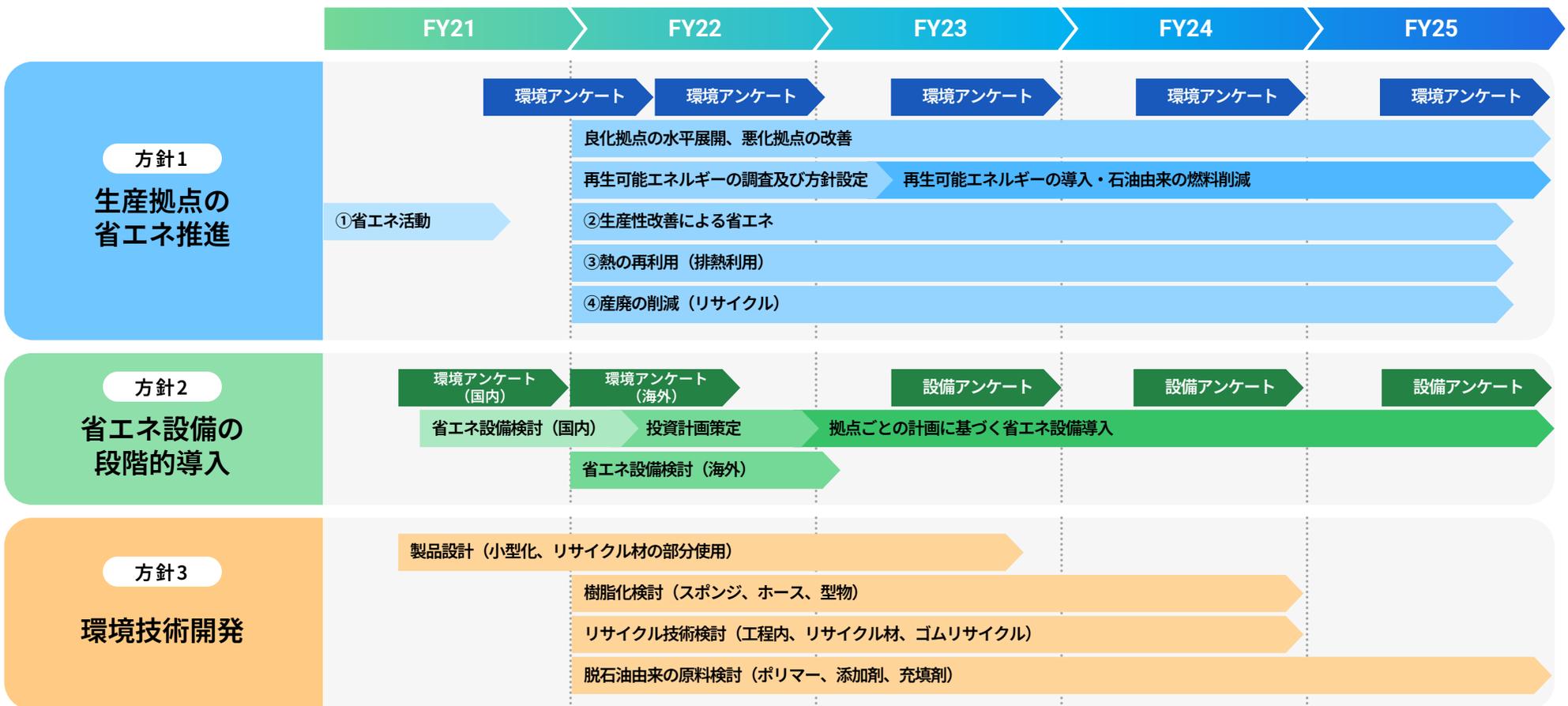
活動内容		2024年目標	2024年実績	評価	範囲
 <b>カーボンニュートラル</b>	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	日本国内拠点は2013年基点に2030年度までにCO <sub>2</sub> 排出量46%削減目標に取り組む 2023年度の削減目標30%に対し実績42.0%と目標を上回る	<b>42.0%</b> 削減	○	国内拠点
	最終処分量の削減	2001年を基準に2025年まで95%以上削減を維持*	<b>100%</b> 削減	○	単体
 <b>産業廃棄物削減</b>	最終処分率の削減	2025年までに再資源化率85%を維持	<b>95%</b>	○	単体
	VOC排出量削減	指定17物質の排出量の削減	2000年度基準 50%以上削減	<b>69%</b> 削減	○

※自社が埋め立て処分している量

# CO<sub>2</sub>削減

## 環境ロードマップ

当社では経団連の『低炭素社会実行計画』に沿った日本ゴム工業会の環境自主行動計画に参加しており、「日本ゴム工業会の地球温暖化対策長期ビジョン」に掲げる2050年のカーボンニュートラルの実現を目指して、次の活動を通しCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでいます。



日本ゴム工業会の低炭素社会実行計画（フェーズII）

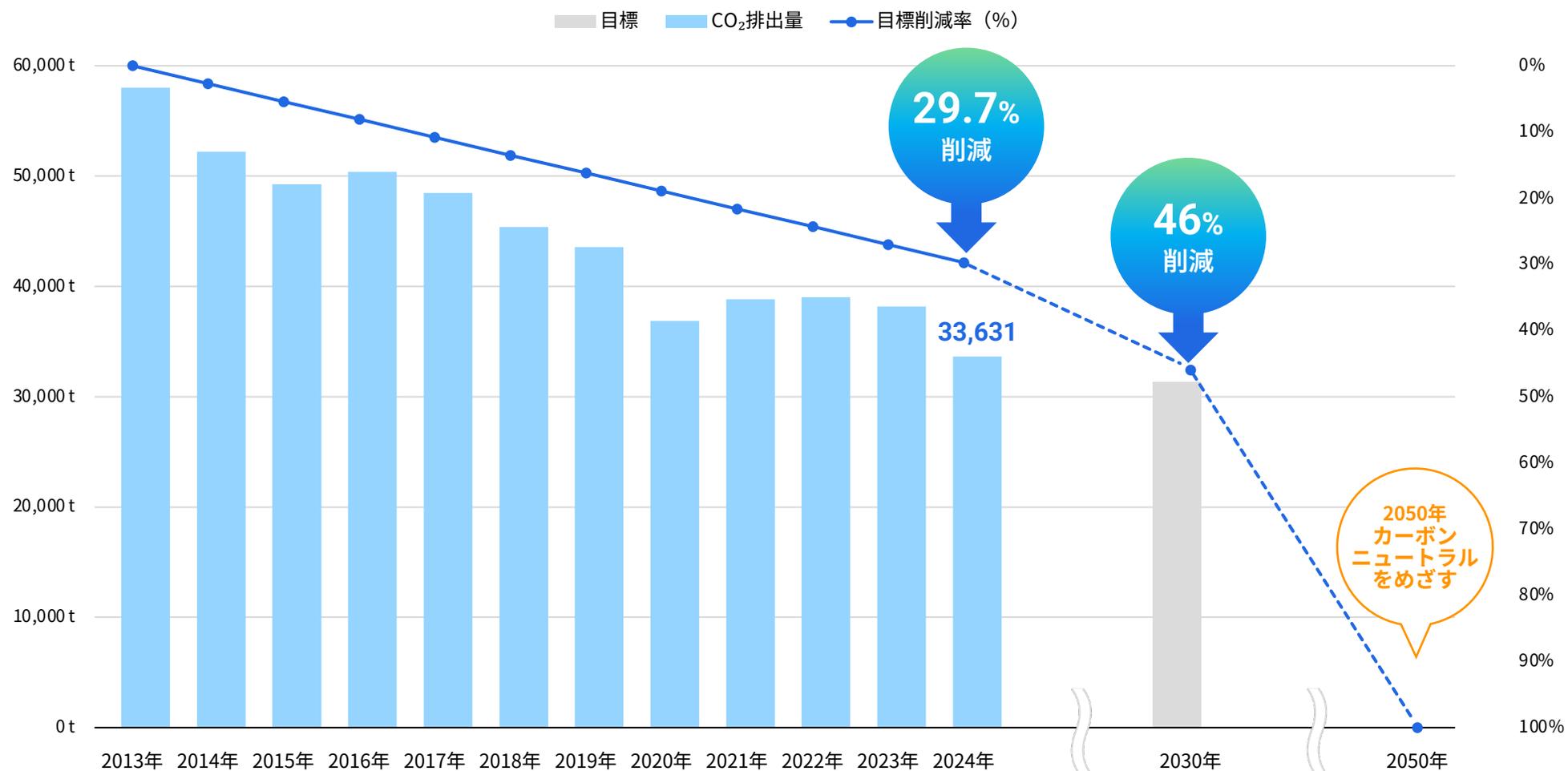
2050年のカーボンニュートラルに向けたマイルストーンとして策定され、2030年度のCO<sub>2</sub>排出量を2013年度に対して46%削減することを目標としています。

国内拠点では2023年度時点で39%(2013年比)削減しており、計画通り進捗しております。

# CO<sub>2</sub>削減

## 日本国内CO<sub>2</sub>排出量推移

国内拠点+国内子会社

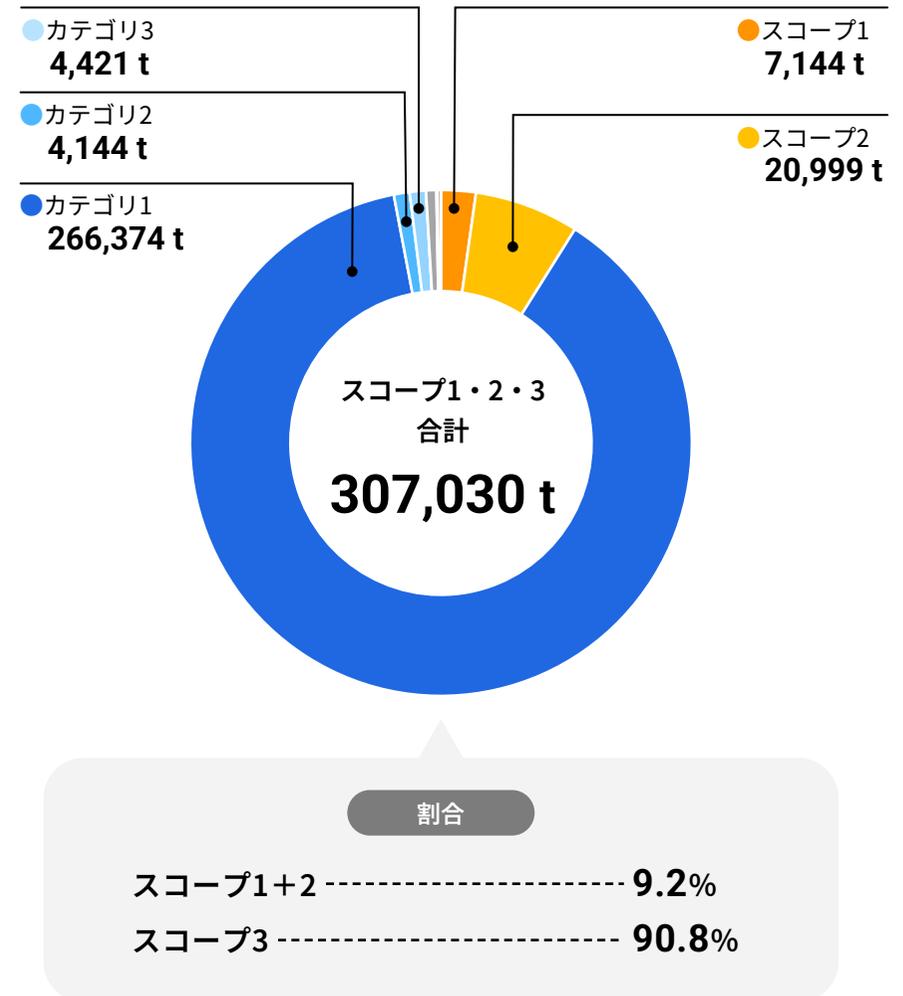


# CO<sub>2</sub>削減

## スコープ別CO<sub>2</sub>排出量

国内拠点（本社・郡山・真岡・埼玉・九州第一、第二）

項目	排出量 (t)
<b>スコープ1</b> 事業者自らの直接排出	7,144
<b>スコープ2</b> 他社からの供給分（間接排出）	20,999
<b>カテゴリ1</b> 購入した製品・サービス	266,374
<b>カテゴリ2</b> 資本財	4,144
<b>カテゴリ3</b> 燃料・エネルギー関連の活動	4,421
カテゴリ4 上流の輸送・流通	—
カテゴリ5 事業において発生した廃棄物	3,045
カテゴリ6 出張	216
カテゴリ7 従業員の通勤	686
カテゴリ8 上流のリース資産	—
カテゴリ9 下流の輸送・流通	—
カテゴリ10 販売した製品の加工	—
カテゴリ11 販売した製品の私用	—
カテゴリ12 販売した製品の使用後の処理	—
カテゴリ13 下流のリース資産	—
カテゴリ14 フランチャイズ	—
カテゴリ15 投資	—
<b>スコープ1・2・3合計</b>	<b>307,030</b>



スコープ3の算定基準

環境省、サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.5）

# CO<sub>2</sub>削減

## 製品設計

環境技術の検討として3つの視点、「形状」「材質」「製造」で様々な開発をしております。

### 形状

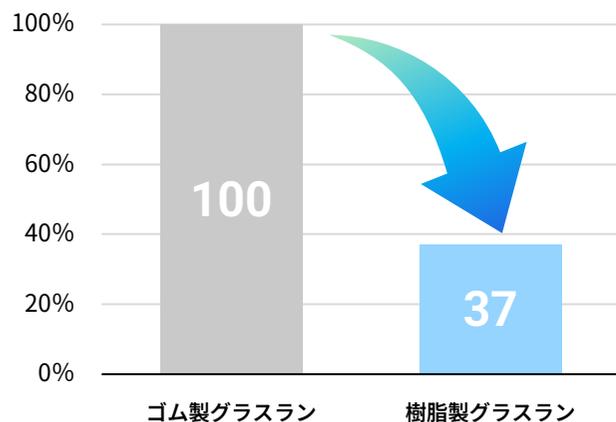
**防振部品：**ブッシュにおいて使用する金具形状を異形にすることで、車体取り付け部の面積を増加させ、金具を小型化し、従来比30%軽量に成功しています。

### 材質

**車体シール部品：**グラスランにおいて、断面の小型化と材質の変更（ゴム→TPE）を組み合わせることで、従来のゴム製品に比べ、約20%軽量。さらに、TPEを発泡させることにより、50%の軽量化を実現しています。

### 製造

ゴムからTPEへ材質変更することによる生産時の電力、約60%削減や、短時間で加硫するゴム材料（加硫時間30%削減）による省エネを実現してきました。



約**60%**  
の削減

ゴム製グラスランの製造電力を100%とした時と比較すると、樹脂製グラスランの製造電力は37%であり、約60%の削減効果があり、積極的に開発を進めてまいります

## 太陽光発電の導入

当社の広州（中国）の子会社では、工場建屋の屋根に太陽光発電パネルを設置しました。発電した電力は工場で利用されています。ほかの拠点においても太陽光発電システム等の再生可能エネルギーの導入を検討してまいります。



## 資源の有効活用を目指した環境への取り組み

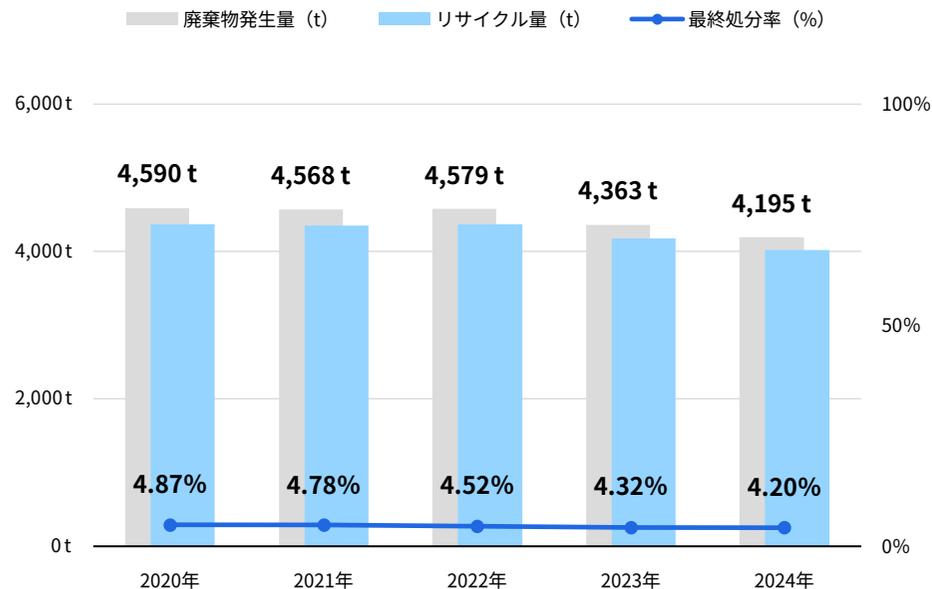
### 廃棄物

当社では、工程変更や歩留まり改善などによる発生抑制と徹底した分別により産業廃棄物の低減を図り、ゼロエミッションを目指しています。

ゴム押し歩留まりの継続的改善（段取り改善、異物改善）を本社技術部門のグローバル拠点横断的活動により行い、廃棄物総発生量の削減につなげています。また、ゴム材よりリサイクルが容易な樹脂材へ変更や工程内リサイクルを拡大することで最終処分率を低減させ、廃棄物による環境負荷の低減を推進してまいります。

#### 産業廃棄物発生量と最終処分率

国内拠点（本社・郡山・真岡・埼玉・九州第一、第二）



### 循環型社会に向けた技術開発

当社で廃棄されるゴムは、その多くが燃焼時の熱エネルギーとして利用（サーマルリサイクル）されています。資源の有効利用の観点からゴムの再利用（マテリアルリサイクル）を推進してまいります。

ゴムは製品を生産する過程で加硫という工程あり、ゴム特有の弾性や耐熱性を持たせる役割があります。この工程を行ったゴムは化学的な結合により、元のゴム原料に戻るのが難しく、サーマルリサイクルされるのが一般的です。一部実施している、加硫されたゴムスクラップを微粉砕し材料への添加する技術の進化や、加硫工程を行う前の状態に戻す（脱硫）技術の開発を積極的に推進し、ゴムの原材料を有効に活用し、循環型社会の構築に貢献してまいります。

#### ゴム製品のリサイクル方針

##### 加硫ゴムのリサイクルに向けた技術開発

ステップ1：粉砕ゴムの拡大採用

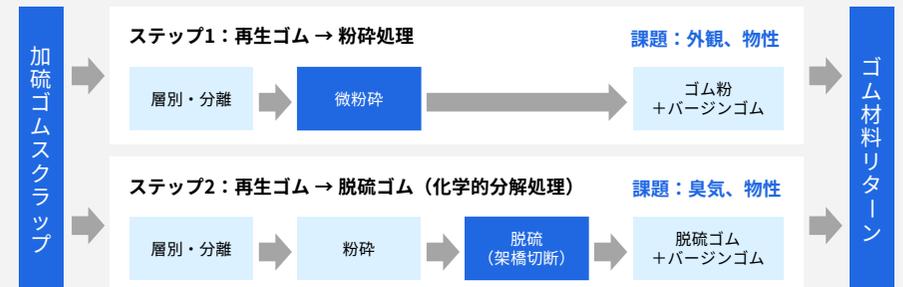
ステップ2：脱硫によるリサイクル  
解体・リサイクルしやすい  
製品設計



微粉砕した廃棄ゴムを用いたマット



当社の台湾子会社では、微粉砕した廃棄ゴムをリサイクル材として、バイクのシール部品を製造しています。



## 持続可能な水利用とVOC排出量の削減

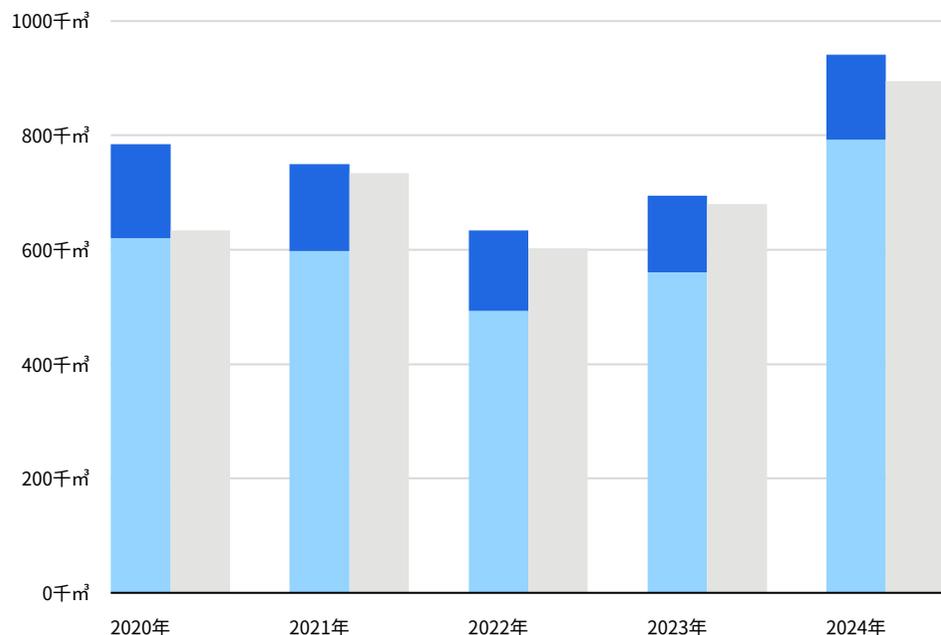
### 水

当社では、水は主に製品や設備の冷却水として使用しています。水資源の有効利用の観点から、使用量の低減はもとより、生産工程で使用される水の循環利用を推進してまいりました。工程変更やさらなる循環設備の導入により、将来予想されている水リスクの低減に努めてまいります。

#### 取水量・排水量

国内拠点（本社・郡山・真岡・埼玉・九州第一、第二）

■ 地下水 ■ 上水・工業 ■ 排水量



### VOC削減

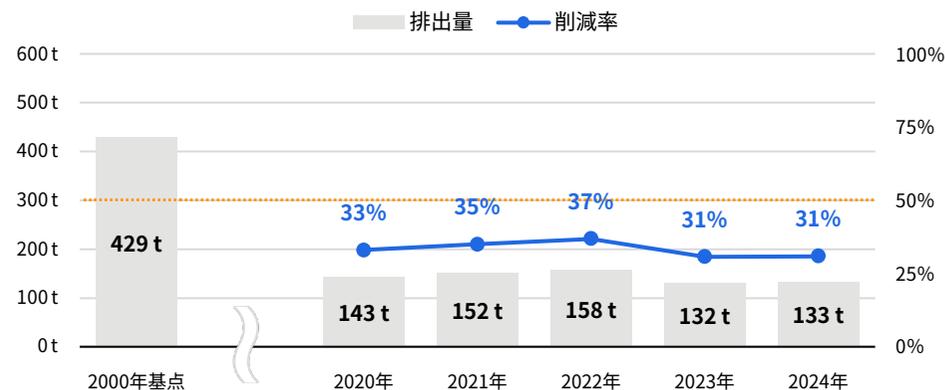
VOC（揮発性有機化合物）は大気中の光化学反応により光化学スモッグを引き起こす原因物質とされています。

また、環境への影響だけではなくVOCは従業員の健康へも影響が及ぶため、健康リスクを最小化するためにもVOC削減に取り組んでいます。2012年度以降はキシレン、塩化メチレン等有機溶剤の使用削減に努め、排出量を削減してきました。2024年度は2000年比69%削減できました。

今後も下記のような取り組みを行い使用量、排出量の削減に取り組んでいきます。

- 新工法の開発により、車体シール部品の表面処理剤塗着効率を約2倍（33%→65%）に向上させ揮発性有機溶剤排出量の削減を行うと共に使用する資材の削減も行っています。
- 脱有機溶剤化（水系表面処理剤、水系接着剤への切り替え）
- 水系表面処理についてはグローバル生産拠点到展開中で、環境負荷の少ない生産活動を今後も継続して行きます。
- 表面処理剤を廃止することで、溶剤を使用しない表面処理方法を多くのシール部品で採用しています。
- VOC対象外洗浄液への切り替え（塩化メチレン→臭素系溶剤）
- 塗着効率の向上

#### VOC排出量と削減率



## 大気汚染物質（国内主要拠点）

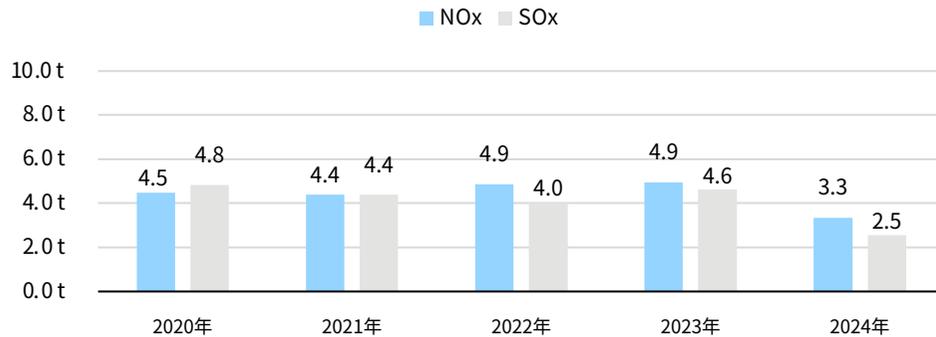
### NOx SOx

当社では、温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>排出量削減を目的に、燃焼時のCO<sub>2</sub>排出量の多いA重油から都市ガスへと燃料の転換を行ってきました。また、一部の拠点では暖房用に使用していたボイラーの使用を廃止し、エアコンに切り替えることで大気汚染物質の低減につながりました。

今後も燃料の切り替えや電化を推進し、CO<sub>2</sub>だけでなく、大気汚染物質の低減に努めてまいります。

### NOx、SOx 排出量 (t)

(国内拠点・国内子会社)



### PRTR

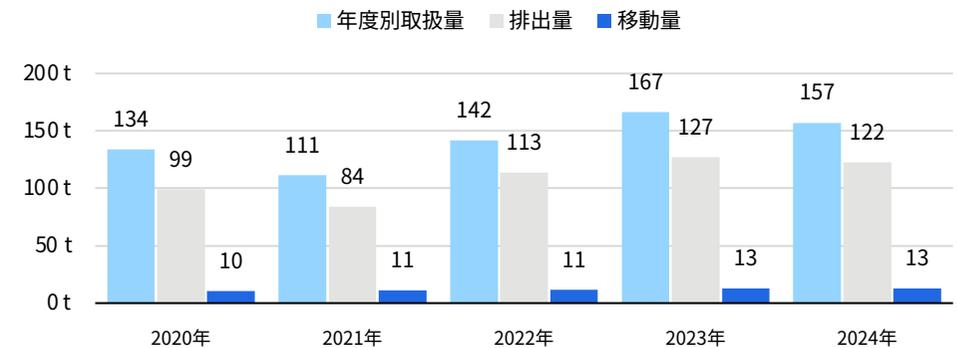
当社では、化学物質の自主的な削減に努め、環境負荷物質低減に取り組んでいます。PRTR制度（化学物質排出移動量届出制度）に従い、対象物質の取扱量、排出量、移動量の把握、報告を行っています。

2023年度のPRTR制度改正により、報告対象となる第一種指定化学物質の範囲が見直されました。その結果、当社における取扱量が増加しています。

今後も継続した取扱量等の把握に努め、資材の見直しなどの活動により取扱量、排出量、移動量の低減につとめてまいります。

### PRTR対象物質取扱量・排出量・移動量の推移 (t)

(郡山、真岡、九州第一)



単位 (t)

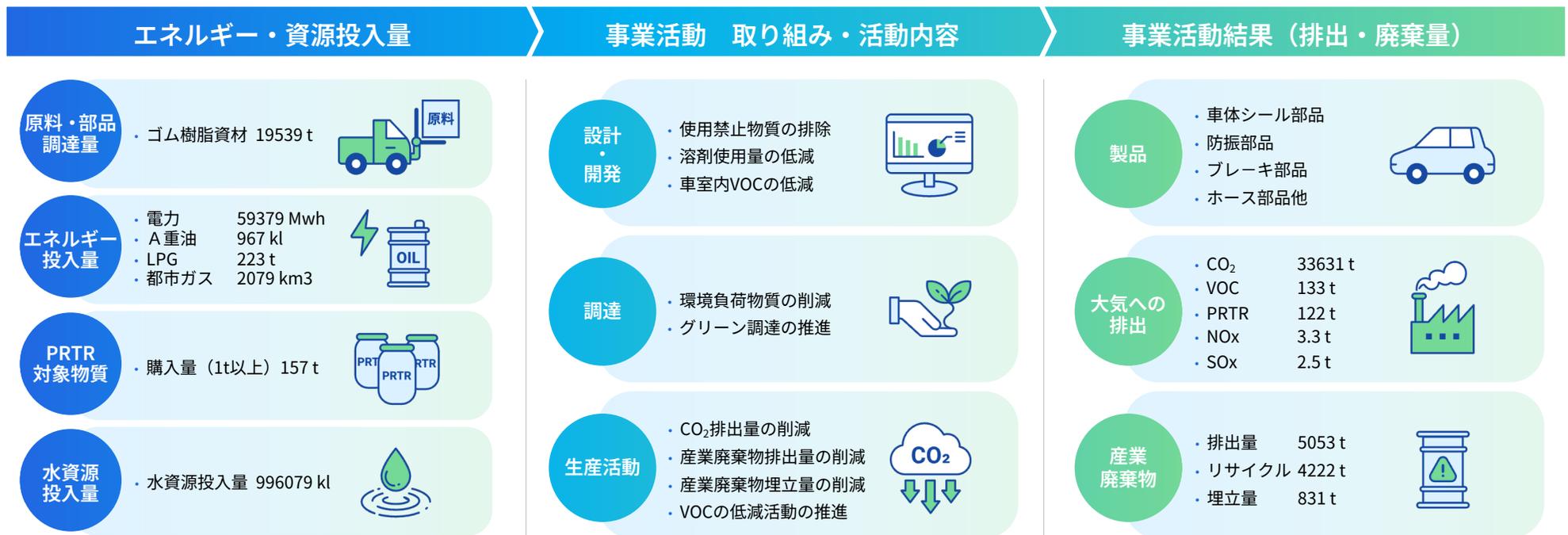
管理番号	CAS	物質名	取扱量	移動量	排出量		
					大気	水質	土壌
53	100-41-4	エチルベンゼン	10	0.7	9	—	—
80	1330-20-7	キシレン	13	0.8	12	—	—
230	793-24-8	N-(1,3-ジメチルブチル)-N'-フェニル-パラ-フェニレンジアミン	13	1.3	0	—	—
262	127-18-4	テトラクロロエチレン	12	1.2	11	—	—
268	137-26-8	テトラメチルチウラムジスルフィド(別名チウラム)	1	0.1	0	—	—
691	25551-13-7	トリメチルベンゼン	6	0.6	6	—	—
300	108-88-3	トルエン	71	5.6	66	—	—
737	108-10-1	メチルイソブチルケトン	21	2.1	19	—	—
477	80-51-3	4,4'-オキシビスベンゼンスルホニルヒドラジド	10	0.5	0	—	—
合計			157	13	122	—	—

※報告対象期間：2024年4月～2025年3月

## 環境への取り組み：資源循環・生物多様性・法令遵守

### マテリアルフロー（国内拠点・国内子会社）

国内主要拠点の総物質投入量と排出量・廃棄量を示します。原材料の多くを占めるゴム・樹脂は、製品の軽量化や生産エネルギー削減のために樹脂比率が高くなっています。また工程内リサイクルが容易なので廃棄物の削減効果も有ります。今後も会社全体で投入量削減、排出量・廃棄量削減に取り組んでいきます。



※VOC、PRTRの排出量は郡山、真岡、九州第一のみ

### 生物多様性

天然ゴムの調達においては生物多様性に関する取り組みとして、天然ゴムを購入する農場に対し「法律の遵守」、「人権尊重」、「環境の維持」、「職場の安全と健康」、「品質管理」、「情報の開示」の継続的な維持を求め、協力頂いております。

### 環境法令違反

環境法令違反を防ぐため、化学物質の適正管理やリーチ規制の遵守、責任ある原材料調達を積極的に推進しています。

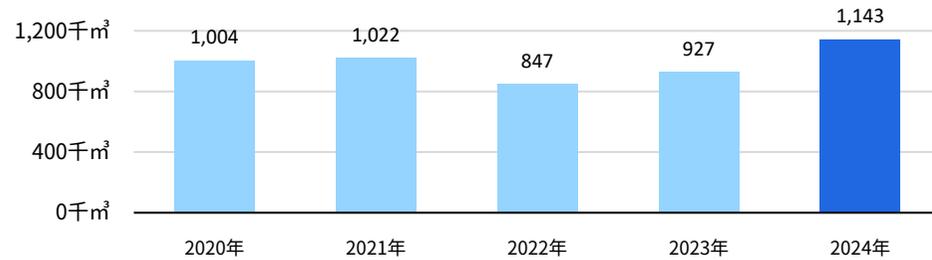
また、天然資源の持続可能な利用を確保するために、ISO 14001などの環境マネジメントシステムを導入し、環境リスクの監視と改善を図っています。

## その他非財務データ

### 環境（グローバルデータ）

当社では、グローバル拠点においても環境データを把握し、環境負荷低減に努めております。

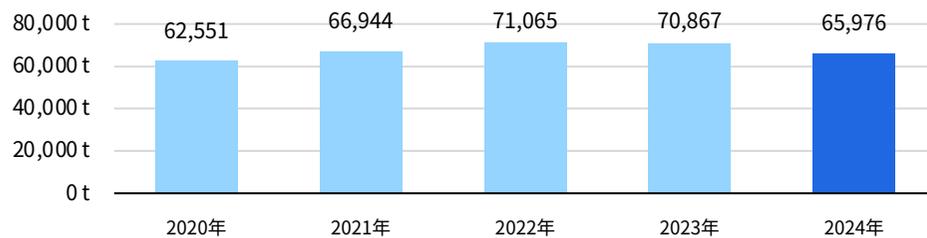
#### 取水量



#### 産業廃棄物廃却量



#### CO<sub>2</sub>排出量



### 社会

当社では、人事データを把握し、働きやすい職場づくりに努めております。

#### 従業員数



#### 平均勤続年数



#### 平均年齢



#### 障害者雇用率



#### 女性管理職比率



#### 有給取得率



#### 一人当たり 時間外労働時間



#### 中途採用率



#### 再雇用者数



### ガバナンス

#### コンプライアンス研修 受講率



#### 内部通報相談件数



# 04

## Society

社会

当社は、働きやすい組織、制度を整備し、従業員一人ひとりのやる気と個性を生かして活躍できる風土づくりを進めています。



## 働きやすい職場づくり

当社は、従業員が一人ひとりが活躍できる環境づくりを積極的に行い、ワークライフバランスの充実やエンゲージメント向上に努めています。



### テレワークの導入

コロナ禍では、従業員同士の接触を避けるため従来の働き方を見直し、テレワーク導入をしました。現在でもテレワークの制度を継続しており、健康上の都合など個人の事情に合わせた働き方ができるようになっています。



### フルフレックス制度

一部の部門ではフルフレックス制度を導入し、従業員にとって都合の良い時間に働いてもらうことで生活と仕事のバランスの充実を図っています。



### 健康診断の実施

当社では全従業員に対して年に一度健康診断を実施しています。また、40歳以上の希望者には人間ドックの費用を助成する制度を設けて従業員の健康の維持向上に努めています。



### 雇用延長制度

60歳を迎えた方へ雇用延長を選択できる「複線・選択型高齢者雇用制度」を導入しています。これまでの貢献に感謝し、引き続きその豊富な知識を会社の財産として活躍いただいております。



### 自己啓発支援

当社では、社員の自己啓発を促進する活動の一環として、当社指定通信講座の費用の半額を負担しています。

## 5S活動の実施

当社では、職場環境を整えるため「整理」「整頓」「清潔」「清掃」「しつけ」の5つの単語の頭文字を取った5S活動を推進してきました。全社的な活動により、生産部門だけでなく事務部門でも実施され、安全で快適な職場づくりに貢献しています。



## GCA

当社では、GCA（Global Company Activity）と称し、従業員が実施した業務上の改善や工夫を提出し集約する活動を実施してきました。好事例には表彰を行い、全社で共有しています。従業員自ら業務効率化や無駄の低減といった日々の改善を意識付ける活動になっています。

### 他の場所で使用されていた廃棄予定の タイルカーペットを再利用した事例



しわが寄って椅子が引けない

タイルカーペットを再利用

## 働きやすい職場づくり

### 従業員

当社は従業員が健康で意欲的に働ける職場環境づくりを目指し、多様性を尊重した制度や支援を充実させています。



ワークライフバランス



テレワーク・フレックス制度の導入



人事制度の充実  
1オン1の実施



長時間労働の防止



男性育児休業



育児介護両立支援



女性活躍推進



外国人従業員の活躍  
マニュアル・掲示物の多言語化



寄付やボランティア活動を通じた社会貢献の推進



エンゲージメント調査

### DEI（多様性、公正性、包括性）

#### 外国人労働者



当社は13か所の海外拠点を持ち、多くの外国人従業員が活躍しています。技能実習生の受け入れや業務理解のための多言語マニュアル作成も行い、一部拠点では実習生向けの寮を併設するなど、外国人が働きやすい環境の整備に努めています。また、トレーニー制度として、海外子会社の社員を日本で受け入れ、グローバルな人材の育成にも力を入れています。

#### 障がい者雇用・シニア人材



当社では、多様な人材の活躍を推進するため、再雇用制度や定年延長を積極的に導入しています。また、障がい者雇用の促進に向けた取り組みを強化し、誰もが働きやすい環境づくりを進めています。これらの施策を通じて、ダイバーシティを尊重し、すべての社員が能力を最大限に発揮できる職場環境を目指してまいります。

#### 女性活躍推進・男性育休取得



当社では、女性の活躍を推進するため、管理職への登用やキャリア形成の機会を均等に提供しています。また、男性の育児休業取得を奨励し、性別に関係なく家庭と仕事を両立できる環境づくりを進めています。これらの取り組みを通じて、多様性を尊重し、全社員が能力を発揮できる職場文化の実現を目指しています。

#### Topic

### 自動車産業の電動化に貢献

電気自動車の普及を目指す上での課題のひとつに充電インフラがあげられます。鬼怒川ゴムグループでは本社駐車場にお客様が自由に使用できる充電スタンドを設置しました。

今後も環境負荷が少ない電気自動車の普及と利用の推進に貢献してまいります。



## 安全への取り組み

当社は、従業員が安心・安全で働き甲斐のある職場づくりを進め、労働災害ゼロを目指しています。

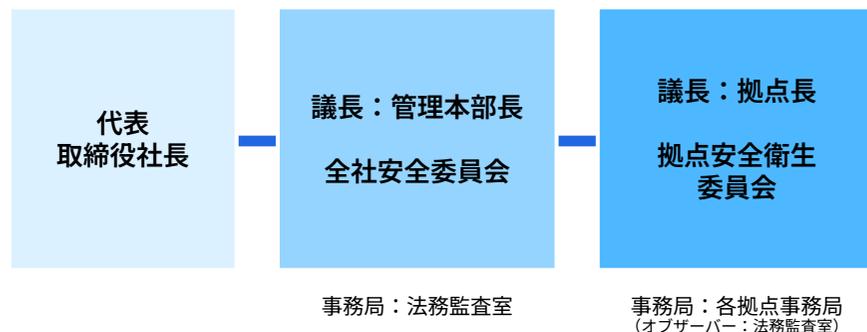
### 安全基本方針

安全は全てに優先することを基本方針として、安心して働ける職場づくりを推進します。

鬼怒川ゴムグローバル安全基準に基いた諸活動を実践して、労働災害が発生しない安全で働きやすい職場づくりに取り組みます。

従業員一人ひとりが常に安全意識を持ち、創意工夫して安全衛生活動を効果的に進めます。

### 安全衛生活動 推進体制



### 具体的な取り組み

#### 1 安全衛生年間計画による継続的・計画的な活動の実行

- ・ 職場環境整備（作業環境測定、健康診断、産業医巡回等）
- ・ 安全衛生管理（安全パトロール、KYT活動、ヒヤリハット活動、等）
- ・ 教育・研修（監督者研修、化学物質管理研修、等）

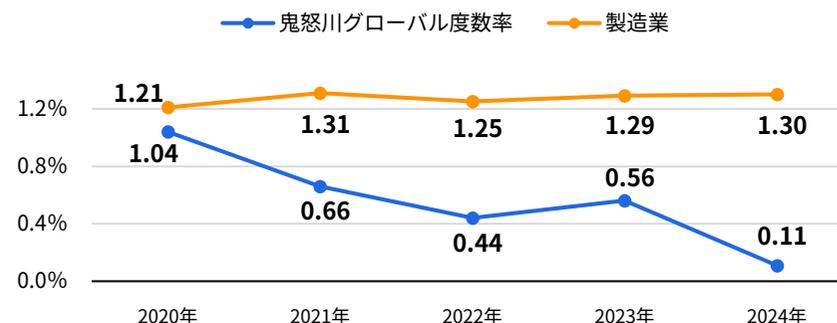
#### 2 設備災害リスクの排除

- ・ 新規設備の安全設計、安全検収チェック
- ・ SA-Net評価（リスクアセスメント）ランクアップ

#### 3 安全意識の啓蒙活動

- ・ 毎日の職場巡回、安全模擬体験、作業観察、等

### 休業災害度数率推移



## 地域社会との関わり

当社では、各拠点が主体となりCSR活動の一環として地域社会貢献活動を実施しております。今後も様々なステークホルダーとの信頼関係を構築し、従業員の生活や企業活動の基盤である地域社会へ貢献してまいります。

### 障害を持つ学生の支援

埼玉ホース生産部では、近隣の特別支援学校から障がいのある生徒を受け入れ、実際の職場を体験できる職業訓練の機会を継続して提供しています。日々の実習を通じて、生徒一人ひとりの成長を支援するとともに、当社としても障がい者雇用への理解を深める貴重な機会となっています。こうした取り組みは、将来的な雇用の可能性の拡大や、誰もが安心して働ける環境づくりの推進にもつながっております。



### インターンシップ受入れと地域学生への学習支援

タイ拠点では、ノンケー職業専門学校のインターンシップ学生を受け入れ、実務を通じた学習機会とスキル向上を支援しています。また、九州生産部第二工場では地域の高校生による企業見学を受け入れ、製造現場の理解促進や将来の職業選択に役立つ機会を提供しています。これらの取り組みを通じ、地域に根ざした人材育成に貢献しています。



### 献血活動

広州（中国）の拠点では、コロナ以前まで行っていた献血活動を再開しました。ほかの拠点でもコロナ以前まで行っておりましたが、順次再開し社会貢献してまいります。



### 従業員とのふれあい

各拠点では、地域に根ざした活動として、従業員だけでなく近隣住民も積極的に参加できる多彩なイベントを企画・開催しています。コロナウイルス流行により一時中断を余儀なくされましたが、状況の改善に伴いこれらの取り組みを順次再開し、地域社会とのつながりを改めて深めています。今後も、ステークホルダーとの対話機会の創出と相互理解の促進を通じて、より良い関係づくりに努めてまいります。



九州生産部第二工場は創業30周年を迎え記念祭を開催。

# 05

## Governance

ガバナンス

当社は、コーポレート・ガバナンスの整備・確立を最重要課題の一つと考えております。

株主総会・取締役会・会計監査による監査の他にも、法務・監査室やコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスやリスクマネジメント体制の強化に向けた取り組みを行っております。



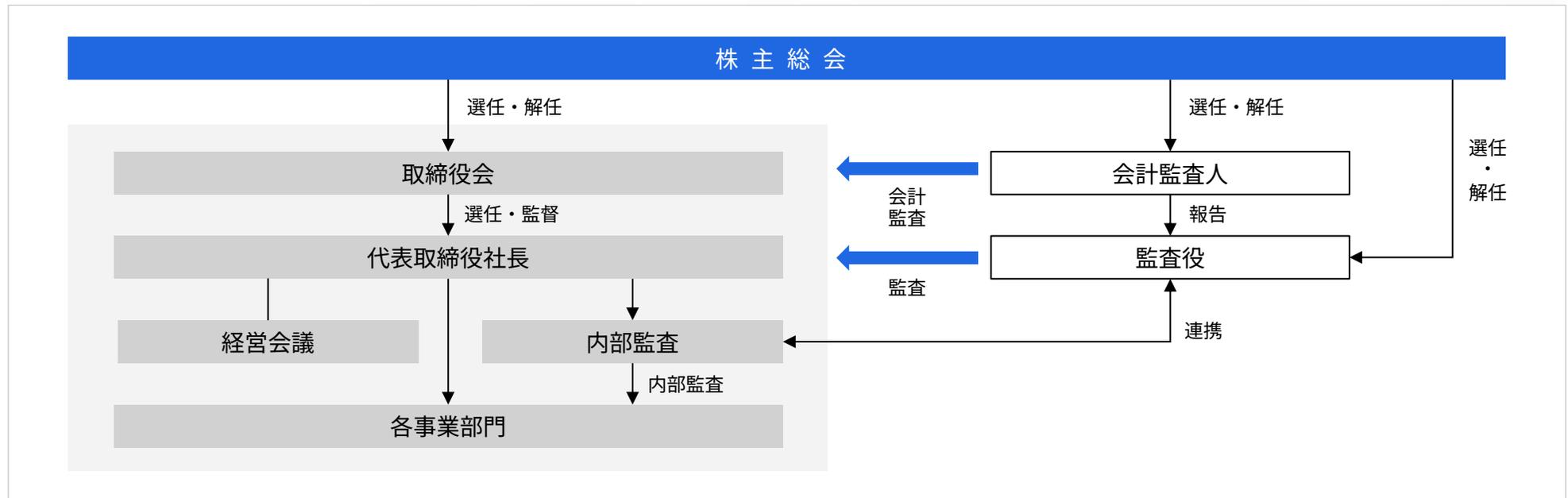
## ガバナンス

### 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社は経営の意思決定の迅速化と業務執行の責任を明確にするため、平成12年度より執行役員制度を導入し、取締役会が選任した執行役員が業務執行を行い、原則的に毎月1回開催される取締役会をはじめ各種会議体を通じて、取締役及び監査役が業務執行の監督を行っております。

また、内部統制システム構築を主目的として法務・監査室を設置しました。これは内部統制を含む企業の果たすべき社会的責任を明確化し、必要な仕組みの構築とメッセージの社内外への発信を行い、グループ全体を統制していくためであります。なお、重要な法律上の判断を必要とする課題やコンプライアンスに係る事案については、顧問契約を締結した外部弁護士に相談し、必要に応じた助言を受けております。

### コーポレートガバナンスの体系図



### リスク管理体制の整備の状況

当社は様々な観点から、リスクを把握、評価し、発生頻度と発生時の被害規模などをもとにリスクマネジメント項目の優先順位付けを行い、担当役員と管理責任部署長からなるリスクマネジメント推進の準備組織のもとで具体的な対策を講じつつあります。

また当社では、従来の行動規範の見直しを進め、「鬼怒川グループ行動規範」としてまとめ、全従業員に展開しております。周知徹底のために教育も実施し、企業倫理遵守の浸透を図っております。さらに「コンプライアンス委員会」を設置し、行動規範の更なる整備や課題の解決、啓発活動を推進し、企業倫理の向上に努めております。

## ガバナンス

### 内部監査及び監査役監査の組織

法務・監査室は、業務の遂行が各種法令や当社の各種規程類及び経営計画などに準拠して実施されているか、効果的・効率的に行われているか、などについて調査・チェックし、指導・改善に向けた内部監査を行っております。

監査役は取締役会などの各種会議体に出席するほか、監査役は定められた監査計画及び職務分担に基づき、業務執行について監査を行っております。また、会計監査人とは期末・中間期末及び期中の会計監査の結果について情報交換するとともに、重要な会計的課題については随時検討を行っております。

### コンプライアンス研修の実施

当社では、コンプライアンス意識を全社的に維持することを目的に、2019年から毎年、全従業員を対象にコンプライアンス研修を実施しております。説明内容は、グローバルで共通したものであり、従業員の使用言語に応じ

日本語

英語

中国語  
(簡体/繁体)

タイ語

インドネシア語

ベトナム語

スペイン語

の7か国語で説明を行っております。

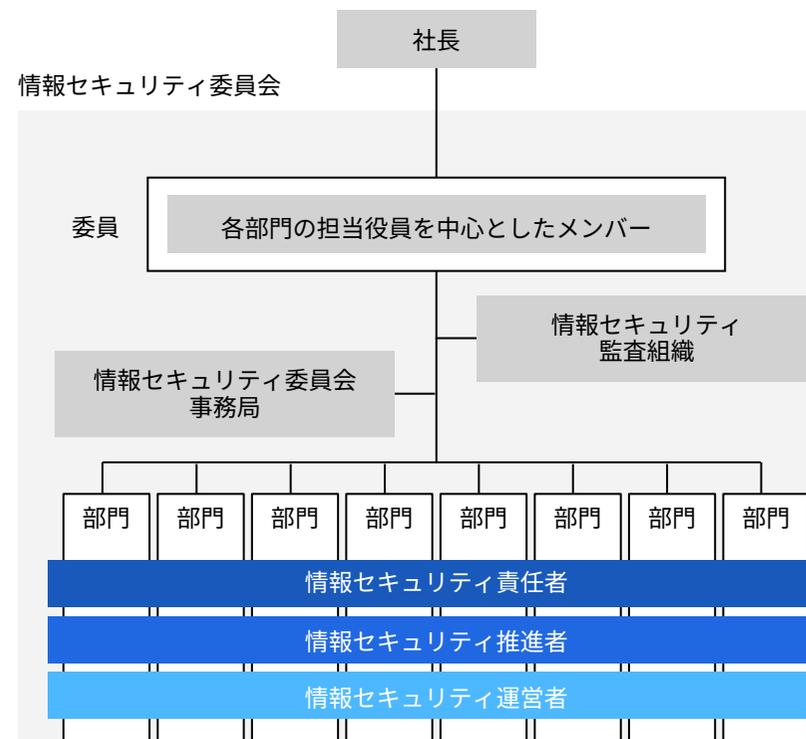
### 内部通報制度を導入

当社では、法令違反、不正行為等の早期発見と是正を目的に内部通報制度を設け、コンプライアンス経営の強化を図っています。各拠点の人目に付きやすい場所に内部通報先を掲示し周知を図っています。また、メールや電話など匿名での通報も可能にしています。外国語でも対応しており、コンプライアンス問題を幅広く吸い上げ、健全な企業経営に活かしています。

### 情報セキュリティ対策と組織体制

当社全体にわたって情報セキュリティを適切に実施する目的で、情報セキュリティポリシーを策定し、経営陣が積極的に参加する情報セキュリティ委員会を設置、運営しています。情報セキュリティ実施状況を管理し、仕組みを効果的に機能させるために、ポリシーの管理、リスクアセスメント、インシデント対応、教育訓練の監督を行うことで、当社の情報資産を保護し、法令遵守および競争力の維持に寄与します。

#### 情報セキュリティ管理体制



## サプライチェーンマネジメント

鬼怒川ゴム工業(株) (以下当社) は、信頼性の高い製品をタイムリーかつ効率的にお届けするために、強固で持続可能なサプライチェーンを構築しています。当社のサプライチェーンマネジメント (以下SCM) は、品質・コスト・納期 (QCD) に優れた運営を実現し、お客様のニーズに迅速に対応することを目指しています。

### 調達方針

当社は、調達にあたり次の基本方針に則り行動します。

1. コンプライアンスを遵守した調達活動を推進します。
2. 調達取引先様 (新規候補先を含む) に対して、公正な取引の機会を提供します。
3. 調達取引先様とコミュニケーションを深め、信頼関係の構築を目指します。

### グリーン調達ガイドライン

当社は、『きれいな環境 残そう子供達に』をスローガンに、環境保全活動を当社の全ての活動に適用していきます。

1. 当社の事業活動が、地球環境に与える影響を捉え、技術的・経済的に可能な環境保全の目標を定め、継続的な改善を進めながら地球環境保全に努めます。
2. 当社は自然環境と社会との調和を図る為に生産活動を中心に省エネルギー、省資源及び廃棄物や環境負荷物質の低減を目指します。
3. 関連する法規及び条令、当社が同意するその他の要求事項を遵守し、当社の技術的・経済的に可能な自主規制を制定し、環境保全に取り組みます。
4. 当社の環境保全を推進する為に、一つひとつの部門、従業員一人ひとりが有効に活動できるように組織を整備し運営します。
5. 私たちは、事業活動に伴う生物多様性への影響低減や、保全につながる社会貢献活動に、自発的かつ着実に取り組みます。

さらに、遺伝資源の利用にあたっては、生物多様性条約の理念を尊重するとともに、遺伝資源を次世代につなぐよう努めます。

### 責任ある紛争鉱物調達への対応

2010年に米国で成立した金融規制改革法 (ドット・フランク法) ではDRC (コンゴおよび周辺国) から産出されるタンタル、スズ、金、タングステン (3TG) を紛争鉱物と定義し米国に上場している企業に対して製品への紛争鉱物の使用に関する情報開示義務が課されております。2021年には対象地域にEUが定義する紛争地域および高リスク地域 (CHARAs) が加わり対象鉱物に関してもコバルト、マイカが追加になっております。

当社ではそれらの鉱物由来の資材・部品を調達する際にCSRの観点から人権侵害やDRCおよび周辺国で不正に採取される鉱物が武装勢力の資金源になるリスクのある国・地域から産出される鉱物を使用しないようサプライヤーの皆様および業界団体とも連携し責任ある鉱物調達を進めるとともに当社が毎年実施している「年次調達方針説明会」を通じてサプライヤーの皆様に向けております。

### EU森林破壊防止規制への対応

当社の使用する材料の中で天然ゴムがEUの森林破壊防止規制 (EUDR) の規制対象となっています。今後、サプライヤーの皆様や業界団体と協力し規制内容に対して迅速に対応するための体制および対応準備を進めております。

これまでも森林、水環境、人権等を保護するSNR-i<sup>※1</sup>要求5項目<sup>※2</sup>を満足している天然ゴムを調達しております。

※1 Sustainable Natural Rubber Initiative

- ※2
- ①生産性改善の支援
  - ②天然ゴムの品質向上
  - ③森林の持続可能性に関する支援
  - ④水 (排水処理、利水権) の管理
  - ⑤人権と労働力の尊重

# 06

## Company

会社概要

社名の由来

### 鬼怒川にないのに、なぜ「鬼怒川ゴム」？

「鬼怒川護謨工業所」の経営者だった岩村氏は、釣りが趣味。ある年の秋、栃木・鬼怒川にヤマメ釣りに行ったところ、思いがけないほど大量の釣果に縁起の良さを感じ、「もし自分が会社をつくった時は“鬼怒川”という名前にしよう！」と考えたそうです。そして後年、自身で設立した会社に「鬼怒川護謨工業所」と名付けたということです。

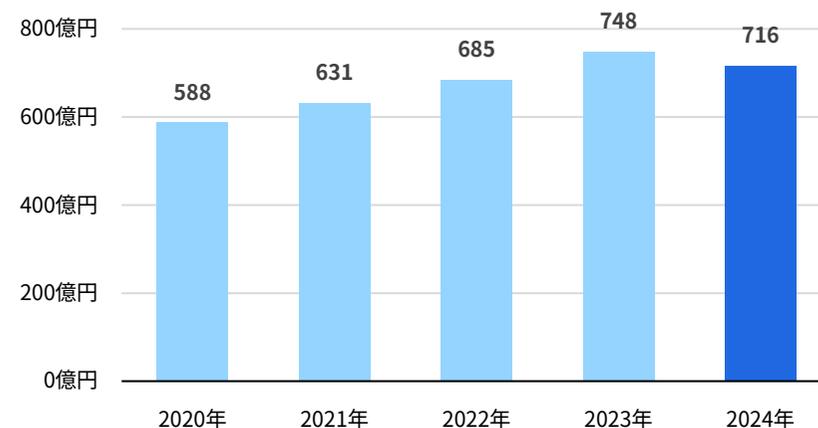


## 会社概要

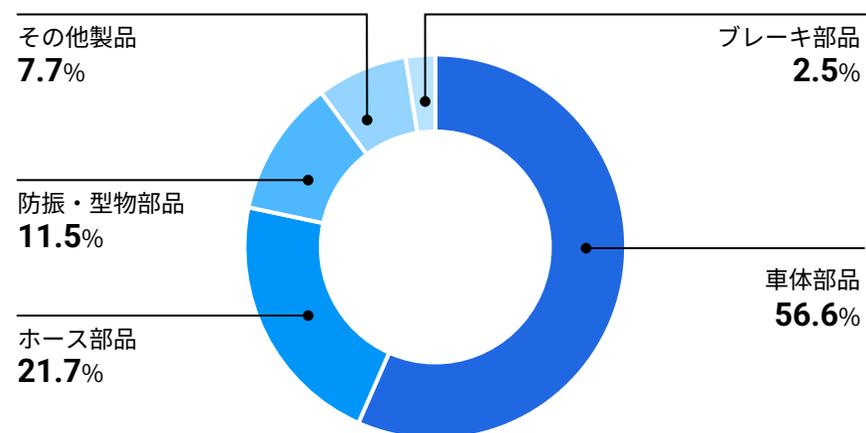


社名	鬼怒川ゴム工業株式会社 Kinugawa Rubber Industrial Co., Ltd.
創立	昭和14年10月1日
資本金	1億円
売上	連結716億円 単独332億円 (2025年3月期)
発行株式	540,080株 (2020年4月1日現在)
代表者	代表取締役社長執行役員 増田耕
本社所在地	〒263-0005 千葉県千葉市稲毛区長沼町330番地 TEL : 043-259-3111 (代表)
従業員数	連結:3,267名、単独:1,293名 (2025年3月31日現在)

### 売上高の推移



### 売上高構成比



## 拠点一覧

報告対象組織は国内 11 拠点、海外 12 拠点\*

※同じ拠点内に、事業部門等の違う工場については各々1としてカウントします。





## 鬼怒川ゴム工業株式会社

発行日 2026年2月  
発行者 鬼怒川ゴム工業株式会社  
〒263-0005  
千葉県千葉市稲毛区長沼町330番地  
問い合わせ TEL : 043-259-3111 / FAX : 043-259-3380



News

ホームページを  
リニューアルしました。

<https://www.kinugawa-rubber.co.jp/>

本CSRレポートは、鬼怒川ゴム工業株式会社（以下「当社」）の環境、社会、ガバナンス（ESG）に関する取り組みや方針を、読者の皆様にご理解いただくことを目的として作成されたものです。本レポートに記載されている情報は、作成時点での最新の内容を基にしていますが、情報の正確性や完全性を保証するものではありません。また、将来の計画や予測に関する内容は、作成時点の見解に基づくものであり、実際の結果とは異なる可能性があります。

本レポートの内容は、当社の事業活動やCSR活動についての参考情報として提供するものであり、投資や契約などの意思決定を目的とするものではありません。本レポートに基づくいかなる判断や行動に関して発生した損害について、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。